

DEBUT 首長

岐阜県各務原市長 浅野 健司氏



あさの・けんじ 1972年生まれ。加納高校卒。自動車販売会社勤務を経て、2001年から各務原市議選に3期連続当選。11年市議会議長。13年4月の市長選に初当選。41歳。

市民対話で優しいまちづくり 航空宇宙産業振興へ規制緩和

かかみがはら
各務原市 岐阜県南部に位置し、人口約14万9000人。航空自衛隊基地を抱え、川崎重工業など航空宇宙産業が集積。

——5選を目指した前市長を大差で破った。

市民の「市政を変えよう、変えたい」という思いが強かった。投票率が前回より10%近く上昇しており、20～40歳代の期待と関心が高かったと思う。

市長選では「市民との対話」「市民目線の市政」を訴えた。若者や子育て世代、高齢者など様々な世代の市民と対話する場を設けていきたい。女性らの声を聞く「ランチミーティング」や「まちづくりミーティング」のほか、インターネットを利用した「e-対話（言いたいわ）」なども始めたい。

——市の総合計画の見直しに着手した。

現在の市総合計画は2010年度から10年間のまちづくりの指針を定めている。2年かけて市民のニーズを集約しながら見直し、15年度から新しい10年計画をスタートさせたい。

市民が幸福を実感できるまちづくりに向け、「誇り」「やさしさ」「活気」の3本の柱で、ハード・ソフト両面から取り組んでいく。「誇り」は市の歴史文化や自然を生かした人づくり・地域づくりを目指す。NPOや市民団体と連携しながら、市民の声を市政に取り入れていきたい。

「やさしさ」は新しい安心づくりだ。まず市庁舎など公共施設の100%耐震化を実現したい。子どもたちの通学路の安全確保や、保育所の延長保育も充実させたい。市内の住宅団地も高齢化が進んでおり、コミュニティバスの路線をより便利なものに見直す。民間の力も借りて、交通弱者や買い物難民への支援も考えたい。

「活気」は市内の元気な企業を応援し、市民や地域の担い手が自由な発想で主体的にまちづくりに取り組めるような支援を強化する。幸いにも各務原市には財政体力があり、次世代にツケを残さない財政健全化路線は引き継いでいく。

——航空宇宙産業などの産

業振興策は。

各務原市は岐阜県内で唯一、航空宇宙産業の集積を目指す国の国際戦略総合特区に指定された。製造品出荷額は県内市町村でトップだ。市は昨年10月、川崎重工業岐阜工場を対象に工場立地法で義務付けられている工場緑地の割合を20%から引き下げる規制緩和をした。今年度は緑地規制緩和の対象地域をさらに広げて、100社程度の関連企業の設備投資を促したい。市全域への経済波及効果を期待している。

各務原市は今年度、市政施行50周年を迎えた。市が誇る歴史・文化・自然を活用するフィルムコミッション事業も始めている。多くの市民に参加してもらいながら、記念事業を実施していく。私は市議時代から県内外の多くの若手首長・議員と交流を重ねてきた。このネットワークも生かしながら、市の魅力を発信していきたい。

(聞き手は

岐阜支局長 杉野 耕一)